

リスクアセスメント報告書（事例１）

対象作業名：間伐作業

実施者氏名：A、B、C、D

報告書作成日：平成〇〇年〇〇月〇〇日

No.	危険要因の洗い出し					リスク見積り (現状)		リスク評価 (現状)	リ ス ク 低 減 対 策	対策後のリスク 見積り(予測)		対策後の リスク評価 (予測)	改 善 に 当 た り 考 慮 す べ き 事 項	優先 順位
	作業名	危険要因の 内容	災害に至るプロセス			可能性	重大性	リスク レベル		可能性	重大性	リスク レベル		
			～するとき	～したので	～(事故の型)になる									
1	伐倒作業	危険区域に入る	伐倒するとき	他の作業者が危険 区域に入り	伐倒木に激突される	△	×	4	①危険区域以上離れて作業できるように作業班の人数 を減らす	○	×	3	1から3を併用して実施する	1
									②横に並び、危険範囲に入らないように離れて作業 する	○	○	1		
									③伐倒時に作業者がいないことを確認し、退避完了まで 作業をしない	△	△	3	人の気配がすれば作業を中止する	
		かかり木になる	かかり木を処理する とき	中段切りをしたので	上から木が落ちてきて激突 される	×	×	5	①回転させて倒す	○	△	2	向こうに押して回す	3
									対策後のリスクレベルを確保する方法を具体的に示す ①対策後に発生する別の新しいリスクに対応する事項 ②残留リスクが増大しないように考慮すべき事項				落ちる方向を見極めて回す方向を決める	
													かかり木の下に入らないように、回し始めと終わりの位置 を決めて行う	
													爪をしっかりかけて回す	
									②伐倒前にロープをかけて引いて倒す	○	△	2	倒れ始めると枯れ枝が来るので素早く離れる	1
													滑車等でロープの方向を変え、直に引いて倒さない	
													引く方向と重心方向の合力方向に倒れ始め、その後 ロープ方向に回ることに注意	
													高木は棒やはしごで高いところにロープを上げて引く	
									③かかり木にロープをかけて倒す	○	△	2	②に同じ	2
		伐倒木	伐倒するとき	木が回わり	作業者の上に倒れ激突される	△	×	4	①退避が容易なように退避の障害になる木を除去する	○	△	2	伐倒の基本の①と③を守って行う	1
									②ロープを使って方向を確実にする	○	△	2	木の重心と周りの状況から方向を判断する	2
													木を切る人とロープを引く人との息をあわせる	
									③重心方向をよく見て受口、追口を作り、くさびを適切に 使って切る	△	○	2	確実に行えるよう時々研修会をする	1
		隣接木の枝	伐倒するとき	伐倒木が隣の木に 当たり	隣接木の枝が飛んできて激突 される	△	×	4	①伐倒方向の木の危険性を見極めて退避場所を決める	△	○	2	①と②を併用して行う	2
									②追口は中から外に切り離す追いつる切りで伐倒する	○	△	2	切ったらすぐ逃げる	
													木が傾き始めたらその様子をよく見て臨機応変に逃げる	1

リスクの評価基準

災害の可能性

可能性ランク	記号
かなり起こる	×
たまに起こる	△
ほとんど起こらない	○

災害の重大性

重大性ランク	記号
極めて重大	×
重 大	△
軽 微	○

リスクレベル

リスクの見積り	リスクレベル
××	5
×△、△×	4
○×、×○、△△	3
○△、△○	2
○○	1

リスクへの対応

リスクレベル	リスクへの対応
5	受け入れ不可能なリスクであり、即座に他の方法へ回避する必要がある
4	受け入れ不可能なリスクであり、抜本的な対策を実施する必要がある
3	受け入れ不可能なリスクであり、何らかの対策を実施する必要がある
2	許容可能なリスクであり、現時点では特に対策の必要がない(残留リスクあり)
1	受け入れ可能なリスクであり、対策の必要がない(残留リスクあり)